

血縁ではない人と ともに住まおう。

「お隣以上家族未満」「変わる家族、変わる住まい」—コ
レクティブハウスに関するメディア記事には、こんな見
出しがついています。独立した住居を専有しつつ、生
活の一部を共同化するコレクティブハウス*と、下宿や
シェアルームなどの共同生活スタイルから「家族にこだ
わらない、人との暮らし方」について考えてみましょう。

*スウェーデンやデンマークで始まった居住スタイル。個々は水回りや設備された専有住居でありながら、共用スペースや設備をシェアし、暮らしの一部を共同化することで、合理的かつコミュニティのある豊かな暮らしができる。



コレクティブハウスでの食事風景。「新たに人と人がつながり直すことのできる暮らし」に関心が高まっている。

人とつながることは 「私」が快適に暮らせること

NPO法人コレクティブハウジング社理事

宮前真理子

少子高齢化や独身者の増加により、介護や子育ては核家族では維持できなくなっています。20年以上前から今日の姿は都市計画の中では予想されていました。「行政は、多様化する個別の

ニーズに応え切れないだろう」。だからこそ、住まい手が「当事者」として快適な暮らしをつくることのできないかと悩んでいました。15年ほど前のことです。そんな折り、コレクティブハウスの研究をしていた小谷部育子さんたちのセミナーを聴きにいきました。

専業主婦がいない北欧では、料理や清掃などを当番制にして家事労働を軽減することを第一目的としてコレクティブハウスが発展してきました。日本では社会進出した单身女性の住まいとして、働く女性たちが注目しました。女性の

給与水準は今より低く、安全で快適な暮らしからは遠かった。世界の住まいを調査するなかで、コレクティブハウスに出会ったのです。

私もそのしくみに共感し、「かんかん森」のプロジェクトマネージャーとして居住希望者と一緒に家づくりを開始しました。みなさんと話し合いを重ね、日本でのコレクティブハウスを創ってきました。現在、私たちが関わったコレクティブハウスは4つあります。

日本では多くの人は持ち家にこだわっています。持ち家でもお金はかかるし、一日でも住めば中古になって資産としての価値も低下してしまうのですが。そして、子どもが独立して、配偶者も亡くし、広い家にひとり暮らししているお年寄りも少なくありません。実は、暮らしの選択肢はたくさんあるはずなのに、住まいのパリエーションが貧困な日本では、多様な暮らしを空想すらできない状況にあります。

東京23区では、ひとり世帯は50%に近づいています。家族世帯といっても、ひとりっ子の核家族も多い。シングルの人は地域のコミュニティに入りづらく、核家族は親の価値観だけで子育てをすることに不安を抱く人がいる。一方で、少しでも世の中の役に立ちたいと思う高齢者がいる。それぞれが、お隣や地域の人と言葉を交わしたいと思っっているのに、今はそれが容易にできない。

豊かで快適な暮らしの条件のひとつは、人とのつながり。けれども、失われたコミュニティ

を個人の力で再構築するのは難しいのです。だから、コレクティブハウスのように「しくみ」や「しかけ」共用の空間「をつくっていく必要がある」と思います。

現在、コレクティブハウスには「赤ちゃんからお年寄りまで」多世代が住み、単身の人も家族で暮らす人もいて、自主運営・自主管理をしています。

各コレクティブハウスでは定例会で様々な事を話し合います。多数決はとらず、今、最良と思われる方法を試行して皆でいい暮らし方をさがります。大切なことは人の話をちゃんと聞くことと、話し合いを信頼すること。話し合いを重ねることで新たな答えが見つかったり、解決する力が高まります。これはもともとコミュニティが持っている力であり、自主管理や定例会はそれを引き出すための「しくみ」でもありません。

あるコレクティブハウスでは、子ども用のイスを組合で購入すべきか、個人で購入すべきか話し合いました。そして子どものいない人も「子どものいる環境を私たちは享受していて、それを価値と認める。だから組合のお金で買おう」という結論になりました。何かあったら相談できる人がいること、一緒に問題に向う人がいることが最大の財産。誰かに助けをもらうのではなく、住民自身がお互い助け合いながら生きる時間を共有しているのです。

「かなかん森」での コレクティブな暮らし

篠田淳子

株式会社
コレクティブハウス

URL: <http://ch-i.net>

(同社は、かなかん森の住民有志で設立した会社)

コレクティブハウスかなかん森に暮らし始めて7年になります。私の場合、入居の目的は母の介護でした。入居前は働きながら認知症の母をみていましたが、母が骨折して入院したことを機に、高齢者施設を探しました。当時は23区に施設は少なく、3年待ちという状態でようやく見つけたのが、かなかん森です。

ここは12階建ての複合施設で高齢者向け住宅、有料介護型高齢者施設、保育園や診療所などがあり、2・3階がコレクティブハウスです。元事業主が多世代コミュニティに関心があり、こうした施設ができたのです。

私は母の近くに住むためにコレクティブハウスを選んだので、他の人と動機は異なるものの、ここに住むメリットは感じています。コミュニティの自然発生が厳しい状況のなか、ここにはコミュニケー

ションの場がたくさんあります。一緒に食事をとる週2〜3回のコモンミールと、コモンミールの日の料理や共有スペースの掃除、菜園テラスの手入れなど、住民が担当を決め協力しながら行っています。ランドリールームでのちよっとしたやり取りもコミュニケーションの場となっています。

今後は、コレクティブハウスの住民と地域との交流をより深めていけたらと思っています。日暮里には下町風情が残っていて、昔ながらのコミュニティが生きている。地域との交流を通して、かなかん森のコミュニティも活発になるのではないかと思います。

居住希望者、研究者、マスコミや企業など、関心を持っている人は多い。今後、住民同士がつながれる「しくみ」を持った住居は増えていくだろうと思います。